



まちづくりに新風！

文化や芸術の振興を切り口に、まちの活性化を

大正末期の石倉のレトロ感を武器に、音楽や演劇などのイベントを通し文化・芸術を発信してきたNPO法人しらおい創造空間「蔵」は今年度、運営の在り方を再考。「20年間ためてきた力を今に合わせ発信、実践し、町民の集いの場に」と、新たな方向性を打ち出しています。6月には、さまざまな分野が加わったまちぐるみで地域の活性化を目指す「白老文化観光推進実行委員会」が立ち上がりました。日本の美を体感する国家プロジェクト「日本博」の採択を受け、白老の文化芸術と観光経済の一体的な推進でまちの魅力向上を目指しています。両団体の活動が今、注目されています。

白老文化観光推進実行委員会

■各界によるまちぐるみ組織

実行委員会は、名誉会長に白老町長、顧問に町議会議長、アイヌ協会理事長が務めています。会長は熊谷威二商工会会長、副会長4人は観光協会会長、建設協会会長、町内会連合会会長、文化団体連絡協議会会長、そして委員にはNPO法人、青年会議所、文化芸術関連企業・団体と、各界で構成する民間主体のまちぐるみ組織です。熊谷会長や事務局を担当する中村論さん（商工会事務局長）らは「趣旨に賛同してくれた皆さんです。白老への思い入れが強いんでしょうね」と反響の大きさに驚いています。観光協会や「白老おもてなしガイドセンター」などの会合も積極的に重ね、仲間の輪も広がっています。

■文化芸術と観光経済の融合

目標は「白老の文化芸術と観光経済の一体的推進によるまちの活性化」です。そして実現手法として文化庁などの「日本博」採択を受け、「白老文化芸術共創ROOTS&ARTS」事業をスタートしました。白老に根付く文化伝承・人の営み（ROOTS）を、住民と多様な来訪者のコミュニケー

■今年度は2プロジェクトを推進

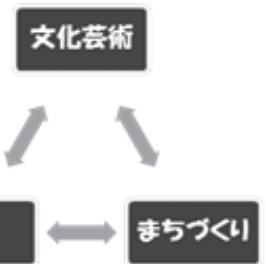
「白老の知られざる魅力を発信」

熊谷会長らは「白老はウポポイ、ポロト湖、アイヌ文化、食、元陣屋資料館、飛生、倶多楽湖などと、いいものがたくさんありながら、あまり知られていない。持っている財産が生かされていません。それらを外から、しかも文化芸術という視点を生かし発信していきたい」と、今年度は「アーティスト・イン・レジデンス白老」と「シルキオ・プロジェクト」の事業を手



「白老が持っている財産を生かしたい」と語る熊谷会長（右）と清水尚昭副会長

ションを通して再発見・再構築（ARTS）する内容です。掛けます。「アーティスト」は、アーティストを地域に一定期間招へいして、地域住民との交流や地域の文化資源を通して制作した作



品を、空き店舗や展示スペースを活用し発表してもらいます。「シルキオ（アイヌ語で「模様」の付いた）」

「将来はまちの産業に」

両プロジェクトは、参加アーティストらが既に町内で動き出しているということで、各展示は9、10月を予定しています。また、地域情報や広報活動を発信するインターネットラジオ番組「週間ラジオウタリ」の配信も既に行っています。

■まちの大きな柱に

メンバーらは「実行委や実施するプロジェクト事業はいわば接着剤。軌道に乗ったら産業としてまちづくりの大きな柱になってほしいですね」と期待を込めて話していました。同実行委連絡先は、しらおい創造空間「蔵」内 ☎8215653。